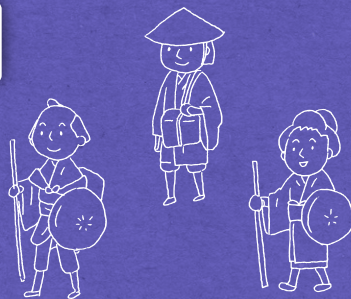


江戸の 旅情を感じる 八幡宿



令和2年度長野県元気づくり支援金活用事業
表紙画：佐久歴史の道案内人の会会員 大工原富氏
製作協力：中山道史友会浅科地区会員の皆さん
佐久歴史の道案内人の会の皆さん



八幡宿について

八幡宿は、江戸日本橋より44里4町(約178km)、24番目の宿場。千曲川の西側にあり、右岸(東側)にあった塩名田宿からは3km弱で、次の望月宿とも3km程度で両方の宿場との間隔は極めて短い。これは、千曲川が川止めになった時、西岸側の備え(待機場)であるとともに、望月宿との間には瓜生坂という峠があったため。近隣の3カ村(蓬田・桑山・八幡)が移住して設けられた。この辺り一帯が強粘土質で降雨や雪解け時には、ぬかるんで通行が困難になることもあった。初めは、^{あらまち}新町と呼ばれていたが、上州(群馬県)の^{しんまち}新町宿と紛らわしいため「八幡神社」にちなんで、八幡宿に改めたとされている。江戸時代末期の公武合体策で降嫁のため通行する際、皇女和宮が本陣に宿泊した。

観光ボランティアガイド

「佐久歴史の道案内人の会」メンバーが、街並や関連する史跡をご案内します。
なんでもご相談ください。



お問い合わせ 佐久歴史の道案内人の会

TEL.090-3143-1264
mskoba@sea.plala.or.jp



ホームページからのお申込み▶

制作 佐久商工会議所 TEL.0267-62-2520

〒385-0051
長野県佐久市中込2976-4

<http://www.sakucci.or.jp>
info@sakucci.or.jp

中山道 佐久の道

佐久市および隣接の町(御代田町・立科町)にまたがり、5つの宿と1つの間の宿があり、私たちは総称して「中山道佐久の道」と呼んでいます。主要な道路と平行しているため、昔の街並みが残っていると同時にアクセスが非常に便利です。



八幡宿

中山道六十九次のうち江戸から数えて24番目で文久元年(1861年)皇女和宮が宿泊した宿場。
この通行の際はお付き・警護・人足など総数8万人といわれる大勢の人々が通行・宿泊した。小松家が本陣・問屋を代々勤めた。

馬頭観音
中山道 八幡宿の入口(京口)。昔、疫病が流行った際に祀り直したといわれている。春と秋に例祭を行なっている。

山小路は野良仕事や山側にある神社や墓地へ行く生活の道だった。

八幡用水
中山道に沿って南側に宿場で使う水路が通っていた。

ここから地形が上がっているの、外から宿場の中を伺いにくい。
↑ 宿場の中が見えたり



おかし いま
上宿 上町
中宿 中町
本宿 本町
宮本宿 宮本

当時「上宿」「中宿」「本宿」「宮本宿」と言われていた地名は、現在「上町」「中町」「本町」「宮本」という名前が残っている。

●セブンイレブン

旅籠屋跡
中山道を挟んで南と北で対照的な造り。表が道側、裏が逆側。旅籠屋は3〜5軒。

八幡宿問屋本陣跡
やわたじゆく

中山道に残る最も古いとされる門。馬に乗ったまま通れる。

脇本陣問屋跡

問屋兼脇本陣。表が北向きの問屋は「日影問屋」と呼ばれていた。脇本陣兼問屋は1軒。脇本陣は3軒。

蓬田 八幡 桑山
土名が 入り組んでいる...



三つ葉柏 十六菊 五七の桐
牧野家 天皇家 皇室の裏家紋
国の重要文化財。
さんげんやしるながれづく こけらぶきひさしもん
三間社流造り・柿葺庇門
など室町時代の特徴的な造り。
3つの紋が扉に記されている。

和算(数学)の問題をといて奉納する県内最古の「算額」がある。

八幡神社

はちまんじんじや

瑞垣門
境内最古の建造物
楼門形式の門。右大臣と左大臣の像が祀られている。

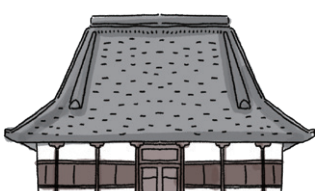
曹洞宗 耳取村玄江院末寺。所在地は蓬田村。御牧原の南斜面にあったが、八幡宿がつくられたころに宿内へ移り、さらに現在地に移ったといわれている。

八幡山常泉寺
はばんさん じょうせんじ

拝殿・本殿

拝殿。後ろに本殿。高良社は元々この位置にあった。縁起の良い動物の造形がたくさんみられる。

高良社



3つの八幡
読み方
はばん 八幡山
はちまん 八幡神社
やわた 八幡宿

この八幡宿には「八幡」の読み方が3つも!!
やわた・はちまん・はばん

